

平成 24 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 24 年 2 月 13 日

学 長 殿

所属部局・職名 経済経営学類・学類長

申 請 者 名 眞田哲也

<p>助成事業の区分 (該当するものに○印)</p>	<p>研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・学会等) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)</p>
<p>事 業 名</p>	<p>国際シンポジウム 「大規模災害からの復興戦略と諸アクターの役割」</p>
<p>事業実施期間</p>	<p>平成 24 年 12 月 7 日</p>
<p>成 果 の 概 要</p>	<p>今回の国際シンポジウム「大規模災害からの復興戦略と諸アクターの役割」は、研究プロジェクトのメンバーによる国際共同研究の成果を社会に還元すると同時に、中国、タイなどにおける各国の大規模災害からの復興の経験を共有し、東北・福島の復興に役立てることを目的に実施された。</p> <p>すでに平成 24 年 3 月には巖成男准教授のコーディネートにより、西南交通大学の研究者を招聘し、「震災復興メカニズムの多様性」というテーマで国際シンポジウムを開催し、大きな成果を上げることができた。今回はその第二弾である。</p> <p>報告者として、福島大学の山川充夫教授による「原子力災害地復興の現段階と課題」、中村洋介准教授による「3.11 東北地方太平洋沖地震の概要と今後の地震発生予測について」など福島大学の研究者に加えて、タイ国、中国から研究者を招聘して、活発な討議が行われた。</p> <p>タイ国における 2011 年の大洪水の際に、復興に携わったチュラロンコン大学と保健省の研究者により、災害時における大学や政府機関の役割などについて報告が行われた。</p> <p>また 2008 年の四川大地震からの復興に尽力されてきた顧林生教授からは中国モデルのあり方についてご報告が行われた。</p> <p>さらにグローバルな視点から世界銀行の上席防災管理官の石渡幹夫氏に東日本大震災の教訓をどう世界と共有するかについて報告が行われた。</p> <p>総勢 8 名の報告者に対し、福島大学研究プロジェクトメンバーによるコメントが専門的見地からなされ、議論が深まった。参加者は百数十名であり、会場は熱気に包まれた。</p> <p>今後、『災害復興学』の構築に国際的な視点から貢献するべく、研究を進めていきたい。</p>



シンポジウム当日の様子



仮設住宅・おだがいさまセンター・視察の様子